

Guidelines for the Measuring Procedure (October 2022)

測定方法ガイドライン(2022年10月)

スキージャンプスーツ

選手の測定

測定中、選手はゆったりした姿勢でいなければならない。服はショーツ一枚で裸足とする。スリッパタイプのアンダーウェアのみ許可する。

ボディー、脚、腕の周りは軸に90度で測定されるが、以下は例外とする：

A) 腕の長さ：両腕を胴体から水平に広げた状態で測定する。

胸部筋肉と胸郭の間(写真1参照)から手根骨(前腕の終わりで印をつけた部分-尺骨茎状突起)写真2参照)まで前側を測定する。

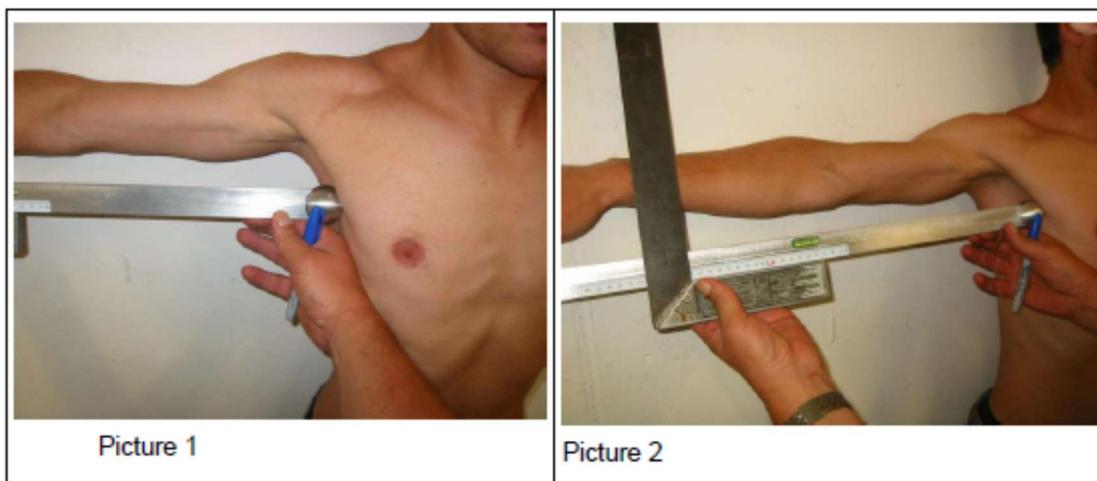


写真1

写真2

B) 身長及び股下測定

選手の身長はレーザーツールで測定され、選手は平らな面(テーブル)に仰向けに横になり、脚をのせ、頭、肩甲骨、臀部、ふくらはぎ、かかとを面につける。

座高は、直立姿勢で平らな面(テーブル)に座り、脚はヒザを90度角に曲げ、足を離し、腕は90度に伸ばして測定する。

股下の長さは、測定した身長から測定した座高を引いて決める。

標準測定要素：

- ・身長
- ・股下の長さ(B,C参照)
- ・腕の長さ(A参照)
- ・首のサイズ
- ・足のサイズ

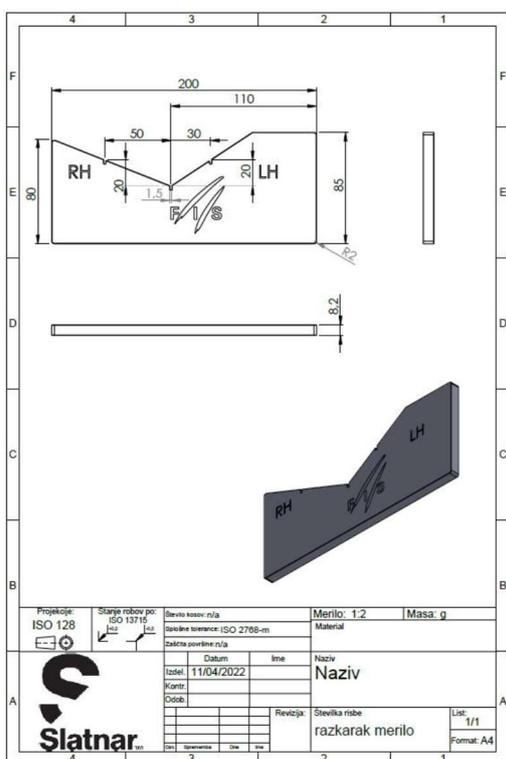
選手から再測定の要求があった場合、大きい数値(高さ、長さ)が考慮される。

スーツの測定

スーツの外側を測定する。スーツはまっすぐ平らで、しわがないことをチェックすること。スーツに

選択されたポイントをマークし測定する。それから、そのポイントの実測値を選手で測定する。

- A) 前腕の長さ(AL)は、脇の下の子ーム(縫い目)が交差するところから、袖の先端までの子ームに沿って測定する。測定した数値は、腕の実寸を上回ってはならず、かつ最大許容差 4cm を下回ってはならない。
- B) 前股下の長さ(SL)は、股下の子ームが交差するところ(SX)から、スーツの脚部分の先端までの子ームに沿って測定する。測定した数値は、測定した選手の股下の長さを下回ってはならない。
- C) 股下: 地面から股下まで垂直に測定する。選手は飛行中やジャンプ前のスタートコントロール中、同じように(ブーツに装着された)ジャンプスーツおよびブーツを着用しなければならない。測定時は足を 30cm 離し、脚は完全に伸ばさなければならない。測定した股下サイズは選手のボディーで測定した股下サイズと一致しなければならない。
- D) クロッチの子ームクロス部分(Sx)がスーツの最下部でなければならない。このクロス部分はスーツの真ん中で(フロントからバック)最大許容差 2cm とする。



競技用品コントロール

選手のボディーのあらゆるポイントを測定可能とし、かつ、スーツ上で同じ部分を測定・比較することができる。選手がスーツを着用し測定する際、選手は両腕を伸ばしヒジをボディーから 30cm 離す。脚も伸ばし 30cm 離す。選手は直立姿勢で立たなければならない。

ジャンプスーツはすべての箇所ですべての選手のボディーにぴったり合うものでなければならない。

直立姿勢でスーツ寸法はボディー寸法と一致しなければならず、最大許容差はスーツのあらゆる部分においてボディーに対し 最低 2cm、最大 4cm とする。ただし、ブーツ周辺部分は例

外とする:ジャンプスーツは、ブーツ周辺寸法より最大 10cm 大きくすることができ(ヒザより下)、ブーツを覆わなければならない。スーツは身長に沿って上下に動けるように作られなければならない。スーツはボディーの如何なる箇所に固定することは出来ない。

ボディーウエイトコントロール

ボディーウエイトコントロールは、ヘルメット、ゴーグル、グローブ、スキージャンプブーツ、ウエッジ無しで行われる。

ジャンプスーツのジッパー

スーツは、垂直にフロント中心のジッパーで閉じなければならず、閉じたジッパーストラップは鎖骨 (collar bone)より1.5cm から5cm 飛び出していなければならない。ジッパーは完全に閉まっていなければならない。ジッパーの下部の長さは、股下のクロスする部分より最低10cmのものまで認められる。

クラッシュヘルメット、ジャンプブーツ

標準化された測定ツールおよび測定方法でヘルメットとブーツのサイズを測定する。

空気透過率

ジャンプスーツのあらゆる部分で測定された素材の空気透過率の差は12リットル以下とし、外側からも内側からも同一であること。

脇-肩パーツの測定

脇-肩周りの測定は、選手がスーツを着用している際に測定される。腕はボディーから45度で伸ばす。選手はまた、スーツを着用せずに測定され、腕をボディーから45度で伸ばした状態で測定される。

男子スキージャンプスーツのシーム (図) → 競技用品規格に移動

女子スキージャンプスーツのシーム (図) → 競技用品規格に移動

アンダーウエア

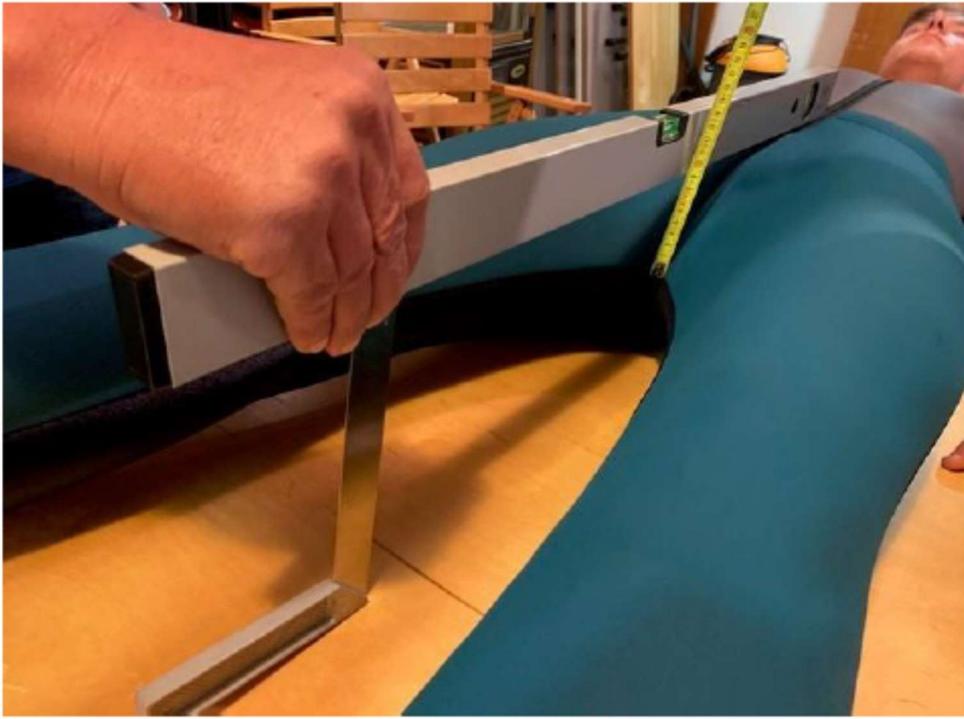
アンダーウエアは二つのパーツ(シャツとパンツ)から構成され、伸縮素材で作られる。

- シャツのフロントパーツの真ん中にあるジッパーを許可する。
- シャツ内側にバックプロテクターを着用する場合、ジッパーはフルレングスを必須とする。

スーツやボディーのあらゆる部分でアンダーウエアを固定することは認めない(ストラップ、フック、テープ、その他固定補助材等)。袖はヒジ上でなければならない。パンツの脚はヒザ上でなければならない。ストッキング/ソックスとパンツのオーバーラッピング(重ね合わせ)は認められない。

スーツの中、又は、スタートビブ(ゼッケン)の下に髪の毛を収めることは認めない。髪の毛はスーツ外側にゆるくそのまま、もしくはヘルメットの中に収める。





グローブ

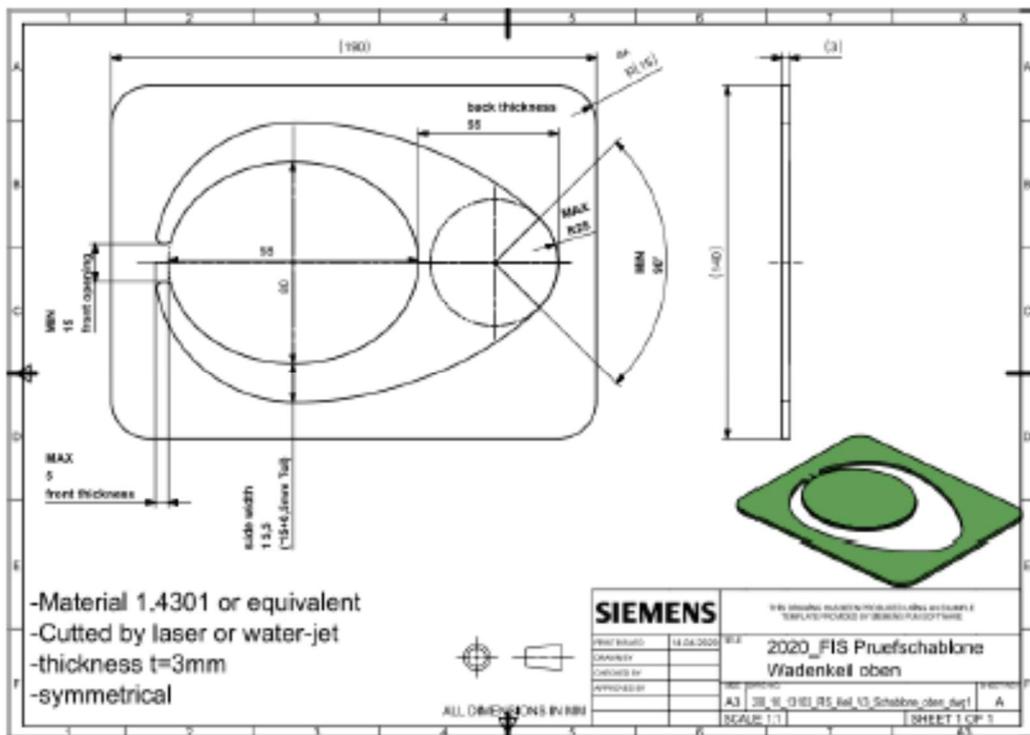
グローブの縫目はグローブの内側になければならない。

トランスポンダー及びモーションセンサー

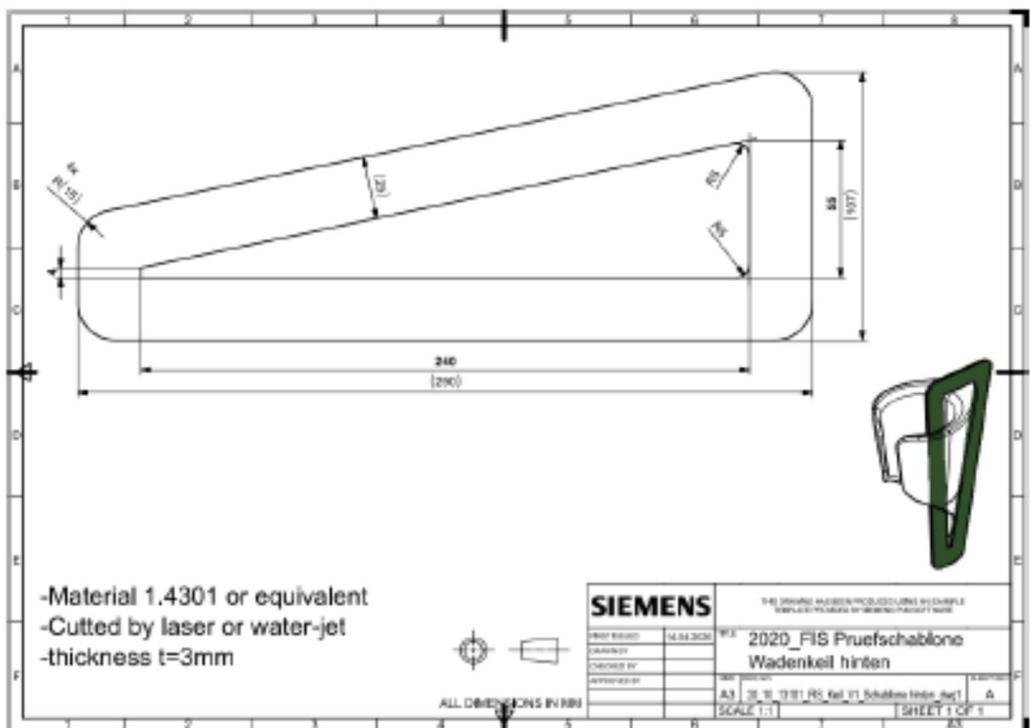
ライブで届きデータが記録されるトランスポンダー及びモーションセンサーが、公式データ及びスコアリングプロバイダーにより提供され、FIS に承認される。これらは、いくつかの大会の公式練習、競技会において選手によりビンディングの前部分に装着されなければならない。トランスポンダー及びモニターセンサーは、選手のスピードやポジショニングなど外部データを届ける。このサービスは、公式タイミング及びデータプロバイダーにより提供され、発生したデータは無料で各 NSA 及び FIS に提供されなければならない。

ウエッジ





- マテリアル 1.4301 又は同等のもの
- レーザー又はウオータージェットでカットイング
- 厚さ $t=3\text{mm}$
- 左右対称



- マテリアル 1.4301 又は同等のもの
- レーザー又はウオータージェットでカットイング
- 厚さ $t=3\text{mm}$

バックプロテクター

定義

バックプロテクターは追加用品のひとつで、選手の背中を外力から保護するものである。背中の中の着用とする。

バックプロテクターの規格

プロテクターの素材は規定の形(写真1参照)とし、EC EN1621-2:2014に準じる極めて衝撃吸収が高い粘弾性の発泡体で構成される。バックプロテクターは、選手の脊柱の身体構造上のカーブになじみ、まっすぐな姿勢で身体にぴったりと重なるものでなければならない。

最大サイズおよび厚さは、パフォーマンスレベル1または2に合致しなければならない。

バックプロテクターの端の部分の厚さは薄くなる。空気力学的効率を上げる目的のデザインは禁止する。バックプロテクターはシャツの適切なポケットにいれて着用しなければならない、取り外しできること。ポケットはシャツに合体したパーツである。

バックプロテクターのサイズ

S	身長	120-140 cm
M		135-155 cm
ML		150-170 cm
L		165-185 cm
XL		180-205 cm

写真1 上

Photo 1 up



Down

下